

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月21日

協議会名：明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

評議会名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・駅名・設備名・運行(航)区間、整備内容等を記載】(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価とどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかつた場合には、理由等記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評議結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
平和コーポレーション株式会社	(1)上矢作線(横道車庫-道の駅-岩村駅前) (2)上矢作線(押山-横道車庫-岩村駅前) (3)上矢作線(大野-横道車庫-岩村駅前) (4)上矢作線(横道車庫-道の駅-パロ一岩村店) (5)上矢作線(大野-押山-パロ一岩村店) (6)上矢作線(パロ一岩村店-道の駅-押山)	前回の事業評価における改善点を踏まえて、次の事業を実施した。 【地域での協議】 ・地域懇談会にてデマンド交通の進行方法について、より利用しやすい内容に改正するよう協議検討を実施。 【再編内容】 ・R7.3明知鉄道のダイヤ改正に伴うバスのダイヤ改正を実施。 ・R7.10可視化データを活用し利用の少ない最終便を降車専用とする効率化の実施。 【利用促進】 ・広報及び地域広報にて変更内容の周知及びモデルコースチラシの作成配布。 ・バス乗り方教室を社会福祉協議会職員向けに実施し指導者の強化を図った。 ・高齢者公共交通利用支援事業として、公共交通利用チケットを配布 ・えーなワンコインバスポートを発行。 ・えーなまち得公共交通応援事業を開始。 ・R7.3グリーン会員証購入会を3日間開催。	A A A A A A	【定め目標】 ○公共交通などで、沿線4高校に通える中学校数は目標9校に對して9校であり目標には達しなかつたが、継続してバス路線を維持することができた。 ○バス利用者アンケートの満足度は目標値(満足、やや満足の合計)97.0%に対して、本年度(R7)は92.0%であった。低下の要因としては、鉄道との接続時間が合わない不便さや乗車定員がいっぱいに乗れなかつたことなどの意見があげられた。 ○グリーン会員証の発行枚数を令和8年度目標値を900枚と設置した。R5年693枚に対しR6年693枚と微減傾向にあり、達成度は79.0%となつた。確保維持計画に記載のある上矢作町と明智町については、前年度より微増があった。上矢作地区R5:14枚→R6:16枚、明智地区R5:219枚→R6:244枚 ○利用者数(上矢作線) 目標7,106人に対し令和7年8,210人で103.4%と目標を達成することができた。 ○利用者数(上矢作線) 目標7,106人に対し令和7年8,210人で103.4%と目標を達成することができた。	○利用しやすいダイヤの検討を行い、利用促進を図るなど目標達成に向けて取り組む。高校生の公共交通利用促進として、明知鉄道通学費支援やえーなまち得公共交通応援事業の店舗拡充に合わせたデジタル定期・回数券のPRを継続的に行い、利用者増を図る。 ○全体の満足度でなく、不満、やや不満との意見にも注視し、各地域と協議を行い改善に取り組む。可視化データを活用し、ニーズに応じた路線再編を行ふ。 ○グリーン会員証は地域協議会や民生委員協議会、健健クラブ、高齢者サロン等でPRをしている。更なる利用者を増やす取り組みとして、PRチラシやポスターの制作掲出、購入会の開催回数の拡充を図る。
明知鉄道株式会社	(7)明智まちなか線(明智駅前-滝坂、明智駅前、おおさわ医院-明智駅前) (8)明智まちなか線(明智駅前-滝坂、おおさわ医院-明智駅前) (9)明智まちなか線(明智駅前-おおさわ医院・明智駅前・滝坂・新町-明智駅前) (10)明智まちなか線(明智駅前-おおさわ医院・明智駅前・滝坂-明智駅前) (11)明智まちなか線(明智駅前-片平・明智駅前・おおさわ医院-明智駅前) (12)明智まちなか線(明智駅前-おおさわ医院・明智駅前・片平・おおさわ医院-明智駅前) (13)明智まちなか線(明智駅前-おおさわ医院・明智駅前・片平-明智駅前) (14)明智デマンド線西地区(阿妻・横通・吉良見・大泉) (15)明智デマンド線東地区(東方・野志・杉野地区)	【地域での協議】 ・明智地区の安心部会にて、デマンド交通が4地区で隔日運行は利用が難しい状況確認、改善に向け協議検討を実施。 ・新規目的地の追加の検討。 【再編内容】 ・R6.10可視化データを活用し利用の少ない系統を他系統に合わせ、利用しやすい便に再編した。 ・R6.10.4地区を2地区とし毎日利用できるよう再編した。 ・R6.10.12 地域の需要に応じたミーティングポイントの新設及び移設を実施 【利用促進】 ・広報及び地域広報にて変更内容の周知及びモデルコースチラシの作成配布。 ・バス乗り方教室を社会福祉協議会職員向けに指導者の強化を実施。 ・高齢者公共交通利用支援事業として、公共交通利用チケットを配布 ・えーなワンコインバスポートを発行。 ・えーなまち得公共交通応援事業を開始。 ・R7.3グリーン会員証購入会を3日間開催。	A A A A A A A A A A A A A A A A	【計画どおり事業は適切に実施された。】 ○公共交通などで、沿線4高校に通える中学校数は目標9校に對して9校であり目標には達しなかつたが、継続してバス路線を維持することができた。 ○バス利用者アンケートの満足度は目標値(満足、やや満足の合計)97.0%に対して、本年度(R7)は92.0%であった。低下の要因としては、鉄道との接続時間が合わない不便さや乗車定員がいっぱいに乗れなかつたことなどの意見があげられた。 ○利用者数(上矢作線) 目標7,106人に対し令和7年8,210人で103.4%と目標を達成することができた。 ○利用者数(上矢作線) 目標7,106人に対し令和7年8,210人で103.4%と目標を達成することができた。	○上矢作地区 ・R8.3利用者ニーズと安全なバス停での乗降に向けたバス停の移設の実施。 ・R8.3明知鉄道のダイヤ改正に伴うバスのダイヤ改正を実施。 ○明智地区 ・R7.10デマンドのミーティングポイントのみであったバス停を地域の要望に応じた形で目的に設定する再編を実施。(ふれあい会館吉良見) ・R8.3明知鉄道のダイヤ改正に伴うバスのダイヤ改正を実施。 住民や利用者への周知は、引き続き多様な手段により周知を図り、公共交通に対する意識を高め、さらなる利用促進を図り、地域と共に持続可能な地域公共交通を目指す。

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会 地域公共交通計画の評価等結果（令和6年10月～令和7年9月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
【目標1】 公共交通を「支える」 「活用する」地域住民の 活動促進	公共交通を「活用」する 団体数 地域イベント等との連携により住民や観光客に公共交通を活用してもらう。	各団体の記録データの確認 達成状況：11団体 達成度：100% 分析：目標達成することができたが、継続して各団体により公共交通を経由してイベントを実施することができた。	達成状況：11団体 達成度：100% 分析：目標達成することができたが、継続して各団体により公共交通を経由してイベントを実施することができた。	1日フリー一切特などをして周知しながら、地域イベントと連携を図る。	
【目標2】 持続可能な地域公共交通ネットワークの形成	ボランティア運転手養成講座の参加者数 交通空白地帯有償運送等の運転手の養成講座に係る費用を支援する。	実績報告の審査 達成状況：9人／年 達成度：24% 分析：実施するタイミングもあり、今年度は受講者が少なかつたが、地域の支え合い活動の一つとして運転手養成講座が主体となっているのが定着してきたと考察する。	達成状況：9人／年 達成度：24% 分析：実施するタイミングもあり、今年度は受講者が少なかつたが、地域の支え合い活動の一つとして運転手養成講座が主体となっているのが定着してきたと考察する。	引き続き養成講座に要する費用の支援し、地域で安心安全で運行できるよう地域の意見を聞きながら継続させていく。	
【目標3】 域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備	公共交通などで、沿線4高校に通える中学校数 バス利用者の意見を聞き取り調査を実施	通学可能な運行設定 路線の再編、時刻や運賃の見直しを行う。	達成状況：8校 達成度：89% 分析：目標には達しなかったが、継続してバス路線を維持することができた。	利用しやすい時間・運賃に設定したことでも加えて、高校生の公共交通利用促進とともに、明知鉄道通字券やデジタル定期・回数券のPRを行い、利用者増を図る。	
	自主運行バス利用者満足度 公共交通利用者数（観光コース）	バス利用者の意見を聞き取り調査を実施 バス利用者や駅周辺の聞き取り調査 明知鉄道が行った料理列車や企画列車、バスツアーの設定・運営	達成状況：97.0% 達成度：92.0% 分析：目標には達しなかったが、満足度90%を超える結果を保っている。	全体の満足度ではなく、不満、やや不満との意見にも注視し、各地域と協議を行って改善に取り組む。可視化データを活用し、ニーズに応じた時刻改正や路線再編を行う。	
	グリーン会員証の発売枚数	観光による公共交通利用 明知鉄道が発行するグリーン会員証の増加により、収入の拡大を図る。	達成状況：12,245人 達成度：76% 分析：観光ツアーや企画列車、バスツアーの開催結果にはある。	観光客もコロナ前の状態に戻りつつあるので、外国人を含めた訪問者が自然に移動できる環境を整える。交通コレクションの周知の強化	
			達成状況：713枚 達成度：79% 分析：前年度より増加傾向があり、3月に3日間明知鉄道の駅での購入会の開催による増加と考察する。	購入会の開催場所や日数の追加や、高齢者が集うサロンや社建クラブ地域協議会等の周知を図るとともに、地域住民による鉄道を支える機運の醸成を継続して図る。	

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「(〇年〇月～〇年〇月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 每年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」欄にその旨を明記の上、「目標」と「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の開催資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保改善事業に関する報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月21日

協議会名：	明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	陸上交通における地域内フィーダー系統
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>基本的な方針：多くの担い手が連携し、多くの方が安心して暮らしおでかけできるまち</p> <p>目標1 公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進 目標2 持続可能な地域公共交通ネットワークの形成 目標3 域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備</p>